

P-12

生活習慣病型癌患者を対象とした統合的ライフスタイル介入 (第2報)

Integrated Lifestyle Intervention for Cancer Patients (2nd report)

○須見 遼子¹⁾、前田 和久¹⁾、平井 啓¹⁾、石崎 直人³⁾、
福田 文彦³⁾、久保 春子³⁾、阪上 未紀¹⁾、真田 泰明¹⁾、伊藤 壽記¹⁾

1) 大阪大学大学院医学系研究科生体機能補完医学講座

2) 明治国際医療大学 臨床鍼灸学教室

Many of cancers are considered to be related to obesity. We have started a clinical trial of integrative (multidisciplinary) approach including diet & exercise program, dietary supplement, psycho-oncology, acupuncture, aromatherapy, etc. to the lifestyle-related cancer patients in the CAM clinic in Osaka University Hospital.

Twenty patients were enrolled in this trial so far. Keeping reduction of complications as well as improvement of patients' QOL & prognosis in mind, we are trying for development of lifestyle-improvement program which is available for a long-term weight control by integrative medicine.

【目的】

肥満は多くの癌の発症と関連する。そこで、ライフスタイルとの関連が示唆される癌患者を対象に、医師、管理栄養士、心理士、薬剤師、鍼灸師、アロマセラピストがチームとなり、食事と運動の介入をはじめとする、統合的な介入を大阪大学医学部附属病院補完医療外来で開始した。

【方法】

一カ月に一回の介入を基本とし全部で12回実施する。具体的には①認知行動療法を取り入れた管理栄養士による栄養指導(エビデンスに基づいた癌予防指針を使用)と運動指導(加速度計付き万歩計を使用)、②鍼灸師による、身体症状・精神的苦痛の軽減、食欲抑制調整の試みを目的とした鍼治療、③アロマセラピストによる身体・精神症状の改善を目的としたアロマセラピーを行う。患者の治療状態に応じて、適宜スケジュールに組み込む。

【結果】

現在、症例は20例で、一般的に癌患者には鬱傾向が見られるが、この中で鬱と診断された方はいなかった。癌と診断後、数年経過してから介入した症例(n=10)では、3カ月後のBMI変化率に差がなかった(p=0.85、平均25.12±0.85→25.14±0.89)。一方、癌と診断後、3カ月以内に介入が可能であった症例(n=5)においては3カ月後のBMI変化率は有意に減少し(p<0.03、平均26.7±0.89→25.9±0.75 kg/m²)、x-scan plus[®]で測定した内臓脂肪面積は、減少傾向が見られた(p=0.19、平均134.4±23.1→130.4±24.0 cm²)。また、血中のアディポネクチン濃度においても改善傾向が見られた(p=0.11、平均8.96±2.59→10.70±3.06 μg/ml)。

【結語】

今後、なるべく早い段階での介入と統合医療を実現し、患者のQOL・予後の改善、合併症の軽減を念頭においた、長期的な体重管理が可能な生活習慣改善プログラムの開発を目指したいと考える。